

謎解きハイキング解答（大蔵山コース：名栗げんきプラザ行き）

【P 1】ここは、正丸駅です。この正丸駅の標高は何mでしょうか？ヒントは改札口付近にあります。
(3 0 1 . 8 m)

いよいよ名栗げんきプラザに向かって出発です。階段を下りて、線路の下をくぐり大蔵山という地名の道を登っていきます。舗装された道は、【P 3】の馬頭様まで続きます。
車に気をつけてください。

【P 2】ここは、安産地藏尊です。この地藏尊では毎年決まった日にお祭りを行います。
その日は何月何日でしょう。
(4 月 2 4 日)

【P 3】ここは、馬頭様です。このあたりから伊豆ヶ岳は、県立の自然公園になっています。
この公園の名前を教えてください。近くの看板がヒントです。
(県立奥武蔵自然公園)

馬頭様で舗装された道から分かれ、左のハイキング道を伊豆ヶ岳（名栗げんきプラザ）方面に進みます。

【P 4】ここは、長岩橋です。まわりはスギの植林です。このあたりのスギやヒノキは、昔から「西川材」と呼ばれ有名です。これは、「ある都市」から見て、西の方角から川を使って運ばれたことから名付けられたと言われています。「ある都市」とはどこでしょうか？
(江戸〈東京〉)

沢にそってハイキング道を登ります。「実谷のふたまた」で、右に曲がり、名栗げんきプラザに向かいます。「カメ岩」までは、しばらくスギの植林の中を歩きます。

【P 5】ここは、カメ岩です。この場所と伊豆ヶ岳山頂の標高は、およそどのくらいちがいますか？
(1 9 0 m)

カメ岩は、名栗げんきプラザの職員が名付けました。チャートと呼ばれるかたい岩石からできています。危険ですので、カメ岩には近づかないでください。このあたりから、尾根道にかけては、明るい林となっています。落葉広葉樹が多いためです。

【P 6】尾根道の左右を見比べると左は植林されたスギ、ヒノキ林、右は落葉広葉樹林になっています。なぜ左側にスギ、ヒノキの植林がされているのか、理由を考えて見ましょう。
(南側斜面で、日当たりがよい場所に植林した。)

【P 7】ここは、大蔵山という地名です。道しるべの周辺（約20m以内）には、アカマツという木があります。この木は全部で何本ありますか？
(8 本)

【P 8】ここは、長岩峠です。木の切り株がたくさんあります。木に年輪の輪ができるのはなぜか考えて見ましょう。
(1年の温度変化で木の成長の度合いが変化するため年輪ができる。温度変化のない南国では、年輪のできない木があります。)

【P 9】ここは、ツガの木台です。植林のスギやヒノキがたくさん切られています（間伐といいます）。何のために木を切ったのでしょうか。
(林の密度を調整し、残った木に光を当て、その成長を促す。生育の良くない木等を切って生育の良い木を残す。など)

このツガの木台付近には、モミの木もあります。どちらの木も大きな木で、常緑針葉樹の仲間です。モミの葉の先がとがっていて触れると痛い感じです。ツガの葉には、痛みはありません。
葉だけでなく、木の肌などもよく観察してください。

【P 10】ここには、沢があります。この気温は、夏は30℃、冬は-10℃になりますが、流れている水の温度は、気温ほど大きく変化しません。なぜでしょうか。
(雨水等が地下にしみこみ、温度変化の少ない地中をゆっくり流れ、川となるから)

げんきプラザは、すぐそこです。舗装された道では車に気をつけてください。